

福祉祭を開催しました



11月13日（日）に第45回福祉祭が東大和市中央公民館を会場として開催されました。テーマは～やさしさは みんなに分けても なくなるしない すべての市民が安心して生活できるように～でした。当日は、本部スタッフとして16名のボランティアが活動しました。

活動内容は、中央公民館受付とホール内での受付、車いす介助・案内、本部手伝い、駐輪場の案内・整理、たまちゃん（着ぐるみ）の6つでした。



福祉祭で活動するボランティア
（黄色のジャンパー着用の方）

ボランティアの皆さんは当日、9時までに集合し各担当場所で活動を開始しました。活動開始から担当者と打ち合わせをしながら運営されていました。ボランティアの皆さんからは、「福祉祭のボランティアは何回か参加したことがあるが毎回楽しく参加している。来場者も多く自分自身楽しく参加した。人数もちょうどよきのびと活動できた」、「形は違ったが楽しく参加できた」との感想がありました。当日は朝早くからご協力いただきありがとうございます。

いきいき活動登録者研修会を開催しました



研修会の様子

者の話を聴き、活動を改めて考える」をテーマとしました。コロナ禍の中、各個人がどのように工夫してボランティア活動を行っているのか、今後どのように活動を行うべきかを考えるきっかけになったと思います。参加者は13名で、市担当の地域包括ケア推進課小林係長にもご出席いただきました。

前半の講話では、「NPO法人まめの会デイサービス えんどうまめ」の緑川氏から、コロナ禍での施設の運営方法やボランティア活動者の活動内容の工夫等を聴きました。緑川氏から、「ボランティア活動をしたという気持ちを持つことに年齢は関係ないため、ボランティア活動を長く続けてほしい」という言葉がありました。「えんどうまめ」は、発足時からボランティアとともに歩んできた施設です。運営にはボランティアの存在が必要不可欠であるという強い思いが、受け入れ施設登録の一つの動機となったそうです。

続いて活動者2名から施設での活動内容やコロナ禍で活動内容に変化があったのか等について話を聴

きました。共通して2名から、「コロナ禍でも活動を続けることに意味があることが再確認できた」とのお話がありました。また参加者からも「活動の内容を変更したり工夫することで活動できることを改めて理解できた」との感想がありました。

最後の交流会では、参加者を3グループに分け意見交換を行いました。各グループとも、日々の活動内容を含めた意見が聞かれ、参考になったと思います。参加者の意見で、「ボランティア活動をしていて困ったことより楽しかったことが多い」という意見や、「利用者から元気をもらっている」、「活動が自分の中で生きがいになっている」などプラス面の意見が多くありました。

全体を通し、日々の活動だけでなく、このような研修会の場合参加者同士または施設の職員、行政・社協という様々な「つながり」をつくっている大切な場であることを確認しました。今回の研修をきっかけに、皆さんの活動が一層充実し、コロナ禍でも絶えない「つながり」が続くことを願います。

全体を通し、日々の活動だけでなく、このような研修会の場合参加者同士または施設の職員、行政・社協という様々な「つながり」をつくっている大切な場であることを確認しました。今回の研修をきっかけに、皆さんの活動が一層充実し、コロナ禍でも絶えない「つながり」が続くことを願います。



研修会の様子

（ボランティア・市民活動センター職員 佐藤）

（ボランティア・市民活動センター職員 佐藤）